



96号
2022.7.13



青森県高P連調査広報委員会
題字：八戸高等学校 諏訪内博彦

青森県高等学校PTA連合会事務局
〒030-0113 青森市第二問屋町4丁目11-6 計量検定グループ庁舎内
TEL 017-757-8586 FAX 017-757-8587
E-mail : akp017si@galaxy.ocn.ne.jp



←「高P連公式HP」QRコードからアクセス!!
http://www.aomori-koupren.com/

青森県高P連総会

5月27日(金)アップルパレス青森に於いて令和4年度青森県高等学校PTA連合会総会が行われました。

田名部智之会長は、「新型コロナウイルス蔓延によりPTA活動や各種各学校の活動が制限された中で厳しい運営を強いられた2年間であった」と振り返り、「この総会を契機に新たな形の中で知恵を出し合い子どもたちのためにしっかり活躍していくPTAになることを切に願う」旨の挨拶がありました。

和嶋延寿県教育長からは、「近年の社会の急激な変化は複雑で予測困難となっており、子どもたちが生きる力を身につけ、様々な課題に柔軟かつ逞しく対応する力を培うことが一層重要となっている。学校・家庭・地域を結ぶ懸け橋であるPTAの活動は益々重要であり、本県の未来を担う子どもたちの健全な育成のためご尽力を賜りたい」と祝辞を述べられました。

総会は八戸東高校の黒坂PTA会長が議長を務められすべての議案が滞りなく承認されました。

最後に新役員が紹介され、新会長葛西孝之氏よりビデオによる代表挨拶がありました。



(調査広報委員長 下町 三三夫)



会長就任あいさつ

青森県高等学校PTA連合会
会長 葛西 孝之

今年度より会長を仰せつかりました青森高校PTA会長の葛西孝之と申します。

これまでに小、中、高の計5校でPTA活動に携わってきましたが、同じ市内にあって「学校が変われば、活動の在り方も変わる」と感じてきました。まして全県的組織である本会においては、活動の状況・課題は地区ごとに異なるものであると思います。それだけに各地区で活動されている会員一人一人が主役であると思います。

私はすべての会員をつなぐ存在として、皆様の声をよく聞き、スムーズな会の運営を心掛けていきたいと考えております。

振り返りますと子ども達の学校生活はコロナ蔓延により大きな影響を受けてきたと思います。簡素化された入学式、授業は時にリモート、部活動も思う存分できず、大会は中止。楽しみにしていた修学旅行も中止または縮小と実に制約の多い高校生活を過ごしてきました。

「コロナを憎んで、人を憎まず」感染したくて感染する人はいません。我慢の多い学校

生活をおくってきた子ども達だからこそ、未来は明るいものであって欲しいと願ってやみません。

先日、近くの小学校で運動会があり、子どもたちの元気な姿が見られました。そのにぎわいが懐かしく、喜びすら感じました。新型コロナウイルスとの戦いが3年目となる今年、本当の意味でのウイズコロナ時代がスタートする年になると思っています。

ICT技術の進展により、県内でも「テレワーク」や「リモート会議」が当たり前となりました。しかし私は、何かが足りないと感じています。どこか他人行儀であり、そこに集う人の心までつながらない気がするのです。

「人は心が原動力だから心はどこまでも強くなれる!!」大ヒットマンガ「鬼滅の刃」主人公・竈門炭治郎の言葉です。炭治郎からもらった勇気を武器に、引き続きコロナと戦いながら、「心がつながる高P連」を皆様と一緒につくっていききたいと思えます。

校 介 加 紹

創立120周年記念事業と笹森儀助の建学精神

青森商業高等学校



奄美大島方面を調査した時の笹森儀助

本校は明治35年（1902）、第2代青森市長・笹森儀助が創立した私立青森商業補習夜学校をルーツとしています。数度の校舎移転を経て、平成29年（2017）4月から現在の戸山校舎に移りました。幾多の有為な人材を輩出してきた本校は、スポーツなどを通じた人間形成も重視しています。運動部・文化部ともに、多くの大会で優秀な成績を収めてきました。

新校舎移転に伴い、生徒が勉学や部活動に専念できる環境をどう整えていくかが課題となりました。令和元年（2019）、後援会が21世紀を担う青商生に夢と希望を与えようという思いから「笹森儀助基金」を創設しました。さっそく行われた台湾への生徒派遣研修は、台湾の高校生の本校訪問、Web交流などを経て、県産ホタテを用いたパスタスープ「味噌醬／たんげめえ」の共同開発へ発展しました。商品開発を授業実践できる本校ならではの強みを生かした挑戦です。本格的な商品化に向け、今年から県の支援が受けられること

になりました。本校生の活動が大きく広がった好例です。

加えて、顕著な功労が認められる関係者に「笹森儀助賞」を贈ることになりました。これまでに野呂健吉、鈴木廣、高橋弘一の各氏が受賞しています。創立者を顕彰する賞が設けられている高校は、珍しいと思います。地域経済の発展には商業教育が必要と考えた笹森翁の建学精神は、県が進める「人財」育成プロジェクトに通じるものと言えるでしょう。第4回授賞式は、10月開催予定の120周年記念式典の中で行われることになっています。

奄美大島の島司を務めた笹森翁は、明治29年（1896）に台湾を訪れました。その興味関心は、台湾の民情と砂糖生産の実態を知ることになりました。笹森翁の探究心に思いを馳せながら、120年という伝統を受け継ぎ、本校は新しい道を造っていきたいと考えています。



ドローンによる人文字（撮影：令和3年秋）

校 介 加 紹

歴史栄えある五農校つなげ未来へ120年の伝統

五所川原農林高等学校

本校は、明治35年に北津軽郡立農学校として設立認可され、大正、昭和、平成、令和と激動の時代に揺れながらも幾多の変遷を経て、令和4年に創立120年を迎えることになりました。その間、相撲部の全国大会優勝や野球部の甲子園出場、またPTA活動においても平成7年に優良PTA文部大臣表彰を受けるなど多くの実績をあげてまいりました。最近では高等学校として、国内初のGLOBALG.A.P.認証（世界基準の農業認証）をリングゴで取得するなど、校訓である「正剛明朗」（そして「質実剛健」）のもと全国の農業高校の先導的な役割を担う存在として、生徒が生き生きと活動し成果を挙げております。

さて、今年度創立120年を迎えるに当たり、PTA・同窓会・後援組織の協力のもと創立百二十周年記念事業実行委員会を昨年設立し、現在、各周年事業に取り組みしております。

事業内容については、記念式典、記念講演、記念誌作成、生徒会館の修繕、相撲道場の改修、学校バスのリースなど多岐にわたりますが、今回、5月に行われた記念植樹について紹介いたします。

記念植樹は本校OBの櫻庭保夫氏が育種し、平成30年3月9日に品種登録したリングゴの新品種「明秋」を植樹しました。最初に、生物生産科3年生が櫻庭氏から講演を

いただきリングゴ栽培に携わる学習内容を深めた後、本校果樹園に「明秋」の苗木を同窓会関係者が参列する中、櫻庭氏と生徒が植樹式を執り行うことができました。当日は、生徒が育種について積極的に質問するなど、記念事業の取組が教育活動にも還元できる良い機会となりました。

最後に、創立百二十周年記念事業は、この節目に当たる生徒たちが歴史と伝統を感じるとともに未来へつなげていくためのスタートラインとして、生徒が主役となって飛躍する場になれるように計画しております。校内外の方々に感謝の気持ちを伝え、関係をいっそう深めるきっかけとなるように進めてまいります。



校 盟 加 紹

地域とともに

さらなる躍進を！

十和田工業高等学校

本校は、上十三地域唯一の県立工業高校として、三本木原台地に豊かな実りを与え続ける稲生川沿いの十和田市下平の地に誕生し、創立60年の節目を迎えようとしています。

昭和38年（1963年）4月、1964東京オリンピック開催を翌年に控え、国全体が活気に満ちた中、高度経済成長の主役となる工業技術者の育成を担うため、機械科・電気科の2学科各3学級で開校しました。昭和58年には待望の建築科が設置され、地域社会の皆様からの支援を頂き、地域と共に躍進してきました。その後、既設学科の再編が進められ、平成元年に電子科が、平成3年には電子機械科が設置されました。地球環境やエネルギー分野への関心が高まったことから、環境やエネルギー分野への対応として、平成23年に機械科の科名を機械・エネルギー科へと改め、新たな設備環境で学習に取り組んできました。令和4年3月、学校再編に伴い電子機械科が閉科となり、現在は機械・エネルギー科、電気科、電子科、建築科の4学科各1学級で、ものづくりを根幹に据えた教育活動に励んでいます。

これに加えて、生徒の通学区域から区割りした保護者主体の地域別活動「地区PTA活動」が、9地区で積極的に進められてきました。各地区独自の研修会や保護者と教員との懇談会の地区開催、地区歓送迎会やレクリエーションなど、保護者の方々の結束力ある活動が引き継がれてきました。これらの活動は学校運営にとって励みとなったばかりではなく、教職員にとっても心強いものでありました。

昨今のコロナ禍でも、これまでの地区PTA活動を基盤とした、より強固で新たな方向性を見だし動き出すことができました。そして、創立60周年記念事業の後援を頂き、ICT機器を活用した学習指導の充実に取り組むことができましたことに感謝申し上げます。

今秋開催する創立60周年記念式典を追い風に受け、新たな十和工高の軌跡を刻み込めるよう歩み続けます。



校 盟 加 紹

徒打毬

向陵高等学校

本校では、毎年八月二日、八戸三社大祭の中日に長者山新羅神社様の馬場で開催される「徒打毬」の奉納試合に生徒が参加しています。乗馬して行う騎馬打毬とは違い、走って競技します。当日は加賀美流騎馬打毬が三試合を行い、徒打毬はその合間に二試合行います。

八戸市の打毬は、江戸時代に武芸奨励のため八戸藩主が神社への奉納行事として始まったといわれています。全国的にみても騎馬打毬は三ヶ所、徒打毬は二ヶ所で行われていないそうです。

今から三十年ほど前、長者山で戦前競技をされていた方々が徒打毬復活の想いを持たれていることを長者山新羅神社の宮司さんからお聞きし、ご縁あつて復活の依頼を引き受けました。男子ソフトボール部の生徒たちが競技方法や作法を教わり、その年の奉納試合に初めて参加しました。



現在まで続けさせていただいております（令和二〜四年はコロナのため中止）。

徒打毬の試合は、紅白二チームに分かれ、杖の先に網のついた毬杖（まりづえ）で自チームの色の毬をすくい上げ、自チームの毬門とよばれるゴールに投げ入れる競技です。四点（チーム四人の場合）先取した方が勝ちとなります。

夏が近づくと参加希望者を募り、本番二週間ほど前から実際の会場で本格的な練習に入ります。練習時間は夕方二時間です。内容は、毬を投げる基本動作の反復、試合形式の練習、所作・作法の確認などです。

徒打毬の面白いところは、チームで作戦を立て、いかにゴールを確実に決めるかです。特にお互いの毬が最後の一つになったときの攻防は激しく、観客の声援も大きくなります。

全国各地からの大勢のお客様に囲まれ、はじめは緊張していた生徒たちも、「頑張れ」「惜しい」などと暖かい声援をいただいて自信を持ち、改めて伝統芸能に携われる喜びを感じています。

この徒打毬の活動を通して、挨拶等の礼儀をわきまえ行動することや、地域のために奉仕・貢献する気持ちを持つこと、関わって下さる全ての方々への感謝を忘れないことなど、多くのことを学ばせていただいております。

（教諭 堀川 誠）

地域とともに

むつ 養護 学校

本校は「はまゆり学園」に隣接し、知的障害の児童生徒を中心に小学部、中学部、高等部合わせて94名が在籍しています。むつ下北地区における唯一の特別支援学校であり、平成23年度から知的障害と肢体不自由を対象とする特別支援学校となりました。あわせて、保護者への教育相談、幼稚園・保育園（所）、小学校、中学校、高等学校への支援、関係する機関への協力や連携など、特別支援教育のセンター的役割を担っています。

昭和44年5月1日に下北地方知的障害施設「はまゆり学園」が開設され、同年6月1日に青森県立第二養護学校はまゆり分校として開校しました。当時は小学部3学級、中学部2学級の計5学級の編制でした。その後、昭和51年4月1日に青森県立むつ養護学校に昇格し、現在の校名となりました。高等部にいたっては、平成2年4月1日に新設され、初めは1学級からのスタートでしたが、現在は7学級49名が在籍しています。



にした活動に取り組んでいます。また、高等部では、社会にでるための大切な3年間と位置づけ、夢や志に向かってチャレンジしています。

「下北から学び、下北と共に活動し、下北に貢献する チーム6245」のコンセプトを掲げ、地域の方々と協働活動に取り組み、学んだことを学校生活や家庭、職場の地域生活に生かし、地域の一員として役割を担って生活することができるよう日々活動しています。

本校は児童生徒一人一人が地域のために役立ち、地域の人から必要とされる人づくり、学校づくりを推進して参ります。

どうぞこれからも本校へのご理解とご協力、ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



市内高校硬式野球部へのエールボール寄贈

「大学の研究室を目指して」

弘前中央高等学校 自然科学部

本校自然科学部は、休部状態だったが、2年前新入部員を迎え、再始動した。「身近な課題から国際貢献へのつながりを見据える研究」というテーマを目標に掲げ、弘前公園外堀の真横にある化学室で日々研究を行っている。

ここ数年の快進撃の契機となったのが、再始動もない2年前の県高総文での最優秀賞受賞である。「落下リングのマテリアルサイクル」アップルペクチンのキレート作用の評価」本県ならではのテーマであり、リングの栄養素に着目したものだ。

1年生部員14名での活動だった。再始動にあたり、顧問に就任した私の呼びかけに興味を示し、入部してくれた。研究は一朝一夕で完結するものではない。計画を立て、実験を行い、データを集める。その繰り返しである。研究は体力勝負である。長時間の実験も根気強く取り組んでくれた。大学の研究室での教員と学生のような関係性で、研究に没頭した賜物だった。

勢いづいた我々は、昨年度、中谷財団・武田財団様より研究費を頂き、より高度な研究ができるようになった。学会に積極的に参加し、我々の研究成果を公表するとともに、そして他の研究者から助言を得て、

頑張っています
我が部活

次なる研究へと繋げている。現在では、学会で知り合った大学教員と研究を行っているグループもあるくらいだ。

再始動に尽力してくれた学年はとうとう3年生。今年度は富山での環境化学討論会、盛岡での日本化学会東北大会、そして和歌山大会に引き続き、2年連続県最優秀賞として出場する全国高総文祭東京大会と全国各地で報告する機会がある。先日、水戸市で行われた分析化学討論会に参加した際、ポスター発表を行った生徒が「研究者とのやりとりが楽しくてしょうがない！」と話していた。コロナ禍で、リアルな体験が難しい現状、普段の研究活動のみならず、こういった対外的な経験を何度までできている我々は幸運である。リアルな体験をできる喜びをかみしめながら、今日も研究に邁進する。

(顧問 柴田 大毅)



令和4年度 一般会計予算

収入総額 16,914,000円
支出総額 16,914,000円
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

科 目	予算額	科 目	予算額
会 費	6,690,500	事 業 費	5,505,000
内 学 校 割	1,030,000	助 成 費	225,000
	0	組 織 活 動 費	2,200,000
	850,000	研 修 ・ 行 事 費	800,000
	180,000	負 担 金	1,170,000
		表 彰 費	270,000
内 会 員 割	5,660,500	会 報 費	840,000
	4,848,000	運 営 費	5,380,000
	750,000	会 議 費	650,000
	62,500	旅 費	2,000,000
		印 刷 費	300,000
助 成 金	450,000	事 務 費	400,000
繰 越 金	8,873,294	通 信 運 搬 費	260,000
雑 収 入	206	渉 外 費	200,000
受 取 手 数 料	900,000	慶 弔 費	60,000
		人 件 費	1,350,000
内 自 転 車 総 合 保 険	400,000	使 用 料	100,000
	500,000	雑 費	60,000
内 高 校 生 総 合 保 障 制 度	400,000	租 税 公 課	120,000
	500,000	繰 出 金	2,000,000
合 計	16,914,000	予 備 費	3,909,000
		合 計	16,914,000

令和4年度 特別会計予算

収入総額 10,681,500円
支出総額 10,681,500円
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

項 目	予算額	項 目	予算額
繰 越 金	8,680,937	助 成 金	0
繰 入 金	2,000,000	特 別 支 出 金	0
雑 収 入	563	予 備 費	10,681,500
合 計	10,681,500	合 計	10,681,500

令和4年度 委員会名簿

委員会名	役 名	氏 名	所 属 校 名	単P役職名
健全育成	委員長	中 村 美津緒	青 森 工 業	健全育成委員長
	副委員長	棟 方 省 吾	黒 石	副 会 長
	委 員	的 場 由紀子	八 戸 東	健全育成委員長
	委 員	佐 藤 美和子	五 所 川 原 商 業	健全育成委員長
	委 員	斗 沢 貴 光	三 沢 商 業	副 会 長
	事務局長	奈 良 研 一	青 森 工 業	渉 外 主 任
進路対策	委員長	佐々木 長 栄	尾 上 総 合 会	会 長
	副委員長	安 江 千恵子	八 戸 聖 ウル ス ラ	副 会 長
	委 員	嶋 田 菜緒子	青 森 商 業	進路対策委員長
	委 員	佐々木 真	五 所 川 原 農 林 会	会 長
	委 員	野 中 貴 健	む つ 工 業	進路対策委員長
	事務局長	佐 藤 博 志	尾 上 総 合 会	渉 外 主 任
調査広報	委員長	下 町 三三夫	八 戸 工 業	調査広報副委員長
	副委員長	清 川 優 子	八 学 野 辺 地 西	調 査 広 報 委 員 長
	委 員	神 康 子	青 森 中 央	調 査 広 報 委 員 長
	委 員	木 村 美千代	弘 前 中 央	調 査 広 報 委 員 長
	委 員	秋 元 紅 香	五 所 川 原	調 査 広 報 委 員 長
	事務局長	田 端 佐佳士	八 戸 工 業	渉 外 主 任
研 修	委員長	笠 井 理 咲 子	五 所 川 原 工 業 ・ 工 科	研 修 委 員 長
	副委員長	鳴 海 貴 子	青 森	研 修 委 員 長
	委 員	工 藤 啓 子	弘 前 南	3 学 年 副 委 員 長
	委 員	藤 井 小 卷	八 戸 東	研 修 委 員 長
	委 員	加 藤 文 丈	大 湊	副 会 長
	事務局長	高 松 淳 也	五 所 川 原 工 業 ・ 工 科	渉 外 主 任

令和4年度 事業計画

活動方針及び事業計画

- 生涯学習を推進し、会員研修と広報活動を充実する。
 - 各委員会主管の研修会や各地区協議会研修会等へ積極的に参加する。
 - 東北大会(盛岡市)全国大会(金沢市)へ積極的に参加する。
 - 各委員会活動を活性化する。
 - 各委員会主管の研修会を充実する。
 - 東北地区高P連・全国高P連各委員会活動を担う。
 - 広報紙コンクールに積極的に応募すると共に、審査会を充実する。
 - 広報活動を拡充する。
 - 広報紙「つながり」(年2回発行)の内容を充実する。
 - リーフレットを新入生保護者に配布し、本連合会及びPTA活動の理解を深める。
 - 本連合会ホームページ(<http://www.aomori-koupren.com/>)により各種情報を提供する。
- 単位PTA及び地区協議会活動を助成する。
 - 各地区協議会の研究活動に対する助成を行うと共に、連絡や連携を密にする。
 - 単位PTA会長会議を開催(年2回)し、諸課題について協議すると共に情報交換を深める。
 - 高校生の健全育成に取り組む活動を支援する。
 - 生徒の安全に関する保険等への団体加入を推進する。
 - 全国高P連賠償責任補償制度、学生・子ども総合保険、高校生24時間総合保障制度の加入率向上に努める。
 - PTA活動の望ましい在り方について調査研究を行い、生徒数減等による組織縮小化に対する様々な方策を模索する。
- 関係機関や関連団体との連携を推進する。
 - 県教育委員会・県高等学校長協会等と連携し、教育環境における諸課題や進路対策等に積極的に取り組む。
 - 県高校定時制通信制教育振興会・私立高校保護者会連合会・特別支援学校PTAに対して助成を行う。
 - 県教育委員会等主催による研修会へ積極的に参加する。
 - 教育環境改善促進のための各種情報収集を行う。

令和4年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	所 属 校 名	備 考	
会 長	葛 西 孝 之	青 森 森		
	柴 田 福 幸	青 森 中 央	東青地区協議会長	
	谷 淵 孝 太	弘 前 南	中南地区協議会長	
	山 田 知 弘	八 戸 東	三八地区協議会長	
	須 藤 久 輝	五 所 川 原 第 一	西北地区協議会長	
	足 澤 勝 則	三 沢 商 業	上十三地区協議会長	
	佐 藤 俊 介	む つ 工 業	下北むつ地区協議会長	
	長 内 修 吾	青 森 森	県高校長協会推薦	
	清 川 和 幸	八 戸 東	〃 三八地区	
	葛 西 由起子	五 所 川 原 第 一	〃 西北地区	
副 会 長	向 田 秀 美	八 学 光 星	私立高校保護者会推薦 会長推薦	
			〃	
	理 事	三 上 雅 也	青 森 商 業	
		白 濱 卯 弘	弘 前 南	
		明 石 進	八 工 大 第 二	県高校長協会推薦 各地区1名
		島 元 力	五 所 川 原 工 業 ・ 工 科	
		山 口 吉 彦	十 和 田 西	
	監 事	大 向 裕 子	名 久 井 農 業	三八地区協議会
		坂 上 佳 苗	北 斗	県高校長協会推薦
	健全育成委員長	中 村 美津緒	青 森 工 業	東青地区協議会
進路対策委員長	佐々木 長 栄	尾 上 総 合 会	中南地区協議会	
調査広報委員長	下 町 三三夫	八 戸 工 業	三八地区協議会	
研修委員長	笠 井 理 咲 子	五 所 川 原 工 業 ・ 工 科	西北地区協議会	
青森県高P連事務局				
事 務 局 長	千代谷 均			
事 務 局 次 長	原 田 豊 則			
事 務 主 任	今 美智留			

編集後記

コロナ禍により制限されていた学校行事や大会などへの保護者の応援観覧も少しずつ緩和されつつあることに、この上なく喜びを感じる日々です。学校の広報紙づくりにおいても広報委員による撮影・取材の機会も増えることでより良い紙面づくりとやり甲斐がともなってくることにワクワクしており、高校3年の最後の年を子どもと一緒に楽しみたいと思っています。さて、今号つながりは加盟校5校紹介させていただきました。原稿にご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。次号原稿を依頼された方は是非ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(調査広報委員長 下町三三夫)



令和3年度 収支決算書

■収益の部

(単位:円)

科	目	決算額
経常収益		16,572,175
うち会費収入		16,455,100
うち雑収入		117,075
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		16,572,175

■費用の部

(単位:円)

科	目	決算額
経常費用		18,789,073
事業費		16,631,970
うち学校安全普及事業費		300,000
うち共済金等給付事業		6,129,393
その他の事業費		10,202,577
管理費		2,157,103
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		18,789,073

(単位:円)

正味財産期首残額	136,549,074
当期増減額(a) - (b)	-2,216,898
正味財産期末残額	134,332,176

令和4年度 事業計画

- ◆ 学校安全の普及充実事業
講習会・研修会の開催や共催、後援
- ◆ 共済金の給付
死亡共済金・後遺障害共済金・負傷共済金・香料
- ◆ その他目的を達成するために必要な事業
安全互助会だより58・59号発行、安全互助会運営のPR活動、各種事業への助成等

令和4年度 役員名簿

■理事・監事

職名	氏名	所属
理事長	大溝 雅 昭	青森県高等学校PTA連合会元顧問
理事	長内 修 吾	青森県立青森高等学校長青森県高等学校長協会長
理事	越田 宏 治	青森県立青森東高等学校元PTA会長
理事	三上 雅 也	青森県立青森商業高等学校長
理事	益川 毅	青森県立三本木高等学校元PTA会長
常務理事	千代谷 均	青森県高等学校安全互助会事務局長
監事	沼尾 冬 樹	青森県立十和田西高等学校元PTA会長
監事	對馬 祐 之	青森県立三沢商業高等学校元校長

■評議員

職名	氏名	所属
評議員	藤澤 重 信	八戸工業大学第一高等学校長
評議員	吉田 錦 一	大湊高等学校元PTA会長
評議員	三浦 基	青森高等学校元PTA会長
評議員	木村 真紀子	東奥義塾高等学校元PTA会長
評議員	秋田谷 誠	五所川原第一高等学校元PTA会長
評議員	下山 昌 一	青森西高等学校元渉外主任

令和3年度 事業報告

1 学校安全普及充実事業費(助成金)	300,000円
(1) 県高等学校体育連盟	100,000円
(2) 県高等学校文化連盟	100,000円
(3) 地区協議会安全教育活動費	0円
(4) 県高P連安全教育活動費	100,000円

2 共済金等給付事業費	6,129,393円
(1) 死亡共済金	0件 0円
(2) 後遺障害共済金	0件 0円
(3) 負傷共済金	335件 6,029,393円
(4) 香料	2件 100,000円

3 その他事業費
(1) 安全互助会だより56・57号発行
(2) 安全互助会手引き配布
(3) 新入生保護者用リーフレット印刷代

青森県高等学校安全互助会加入生徒数	
全日制	26,966名
定時制・特別支援学校	976名
通信制	319名
総数	28,261名